

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所  
2020年度 パフォーマンス向上会議情報(2020年6月4日(木)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2020年6月4日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	<p>【プロセス主建屋 水位計の設置高さの誤りについて】</p> <p>プロセス主建屋の水位計2の修理工事において、修理後の検尺の際、水位計1と水位計2との指示値の差が約170mm(本来なら同等)あることを確認。</p> <p>水位計1の故障等による過去のデータ確認や図面および現場調査を実施したところ、水位計1の設置高さの誤りの可能性ありと判断。</p> <p>水位計2については修理後の設置高さは正しいが、修理前後のデータの比較から修理前については設置高さの誤りの可能性ありと判断。</p> <p>現時点での推定原因は複数考えられるため、さらに調査を進め原因を特定する。</p> <p>今後、水位計1の設置高さを直す必要があるが、現場が高線量のため綿密な作業調整を行ったのち恒久対策を実施する。</p> <p>現在においても、水位計1は実水位より安全側に高く指示していること、実施計画における運転上の制限としている水位までは大きな差があることを確認済み。</p> <p>また、当該水位計の測定データは原子力規制庁に提出している「水処理週報」作成に使用されているため、原子力規制庁に相談して調整していく。</p>	G II	6月2日
2	<p>【2号機 タービン建屋漏えい監視装置の断線警報の発生について】</p> <p>2号機 タービン建屋漏えい監視装置(B)系の「断線警報」が発生。</p> <p>現場に漏えいはなく、漏えい監視は(A)系で継続。</p> <p>当該漏えい検知器のケーブルコネクタ清掃およびケーブルコネクタ接続状態を確認後、復旧済み。</p>	G III	5月27日
3	<p>【構内連続ダストモニタ監視システムのモニタ表示不良について】</p> <p>構内連続ダストモニタ監視システムの「データ収集遅延警報」が発生。</p> <p>構内全15箇所のデータが表示されていないことを委託員にて確認。</p> <p>データ伝送用の無線中継機を常用系から予備系に切替えしたところデータ表示が復旧されたことより、無線中継機の常用系故障と推定。</p> <p>今後、原因を調査し、再発防止対策を検討する。</p> <p>なお、データ表示がされていない間、モニタリングポスト、敷地境界付近のダストモニタの指示値に有意な変動がないこと、および、プラントパラメーターに異常がないことを確認済み。</p>	G III	5月31日
4	<p>【6号機補助海水系ポンプ(B)の吐出圧力計の動作不良について】</p> <p>6号機補助海水系ポンプ(B)の吐出圧力計の動作不良を確認。</p> <p>6号機補助海水系ポンプ(B)起動後、通常約10秒程度で吐出圧力計の指示が落ち着くところ、約6分かかった。</p> <p>当該吐出圧力計よりも上流側にある圧力計では指示が上昇していることを確認。また、現場のポンプ運転状態にも異常がないことより、当該吐出圧力計単体の不具合と推定。</p> <p>圧力計フィルター詰まり等が考えられるため、今後点検を実施予定。</p> <p>なお、当該吐出圧力については、上流側にある圧力計で代替監視が可能なため、運転には影響なし。</p>	G III	6月1日
5	<p>【高性能多核種除去設備建屋の火災警報発生について】</p> <p>高性能多核種除去設備建屋の火災警報が発生。</p> <p>当社社員が現場を確認したところ煙、塵埃、湿気などは確認できなかった。</p> <p>警報を解除し復旧させたが再発報もないことより、一時的な塵埃等が感知器内を通過したことによるものと推定。</p> <p>今後、当該火災検知器を交換し、既存の火災検知器は点検を実施予定。</p>	G III	6月1日